

【TOP】

危うし！レイコさん／溝江玲子／

[4／秘密保護法で危機一髪](#)

[3／編集できず危機一髪](#)

[2／歯に挟まり危機一髪](#)

[1／膝が痛くて危機一髪](#)

危うし！レイコさん／溝江玲子／4／秘密保護法で危機一髪

昨年末、衆参両院で強行採決された特定秘密保護法。かつての悪法「治安維持法」と内容が酷似した、危険極まりない法律だ。

この法案が安倍政権によって、臨時国会に提出されたのは、2013年の10月だった。

私はそれよりずっと以前から、この法案の中身に危機感をつのらせてきていた。しかし周囲の人は、「秘密保護法ってなんのこと？」という調子で、そもそも法案の存在自体を知らないし、興味も示してくれない。このままでは、国民がこの法案の中身をよく知らないままに、まんまと成立させられてしまうかもしれない。

私は、ラジオ番組「ももっちおばちゃんのラジオお昼便」で、世間に向かって啓発することにした。でも、政治的な話にすぎるかもしれない……。不安はあったが、民主主義と子どもたちの未来がかかっているのだ。

11月、私は意を決した。講師は、関西勤労協の中田進先生。緊急収録は11月の18日に行われた。

ラジオ局の放送スタッフも、収録前は「言論弾圧とか、おおげさじゃない？」と軽く考えていたのだが、中田進先生のお話を聞いているうちに、顔が青ざめていく。

放送日は11月20日、27日、12月4日、11日、18日に決定した。

ところが、政権は国会での審議もつくさず、自公政権の強行採決の連続という暴挙の展覧会場と化した。放送が国会の展開に追いつかない大ピンチに！

しかし、人々は「秘密保護法」反対に立ち上がった。国会前で、日本中のあちこちで、デモや集会が行われた。

民意を無視するやり方への怒り、そして明るい未来を築こうとの希望の顔、顔、顔。法案は通ってしまったが、廃止をめざし抗議の声はまだまだ大きくなる。

ラジオ放送の様子は、Y o u T u b eで見れます。アクセスしてね。

(児童文学作家)

(2014年02月28日、「赤旗」)**【TOP】**

危うし！レイコさん／溝江玲子／3／編集できず危機一髪

被爆医師・肥田舜太郎さん取材し、その過酷な体験と未来への想いを出版しよう。そう決心したのは、やはり、福島第1原発事故の経験からだ。

せまい国土に54基も原発を建て、とうとう取り返しようもない大事故を起こしてしまった日本。

広島でご自身も被爆されながら、医師として医療活動に当たり、その後は核廃絶運動などにも奮闘なさってきた肥田先生の体験と想いを本にすべきだと思ったのだ。

肥田先生にご連絡したところ、出版の企画にご快諾いただいた。

どうせなら、取材の模様を動画撮影して、ネットでも閲覧できるようにしよう（ネットの動画発信は、一度やってみたかったのだ）。そう欲をかいた私は、知り合いの画像編集者に、ビデオカメラもお頼みできる専門のプロのカメラマンを紹介してもらった。カメラマンと私、荷物持ちの末息子が、埼玉のご自宅まで取材に向かうことになった。

お約束の時間に到着すると、さっそくビデオカメラを据えての取材開始。肥田先生は取材日当時95歳のご高齢だったが、大変お元気。こちらがあらかじめ用意していた質問に熱を込めて話して下さる。原爆の恐ろしい真実が次々と語られる。圧倒と感動の4時間だった。

ところが、である。撮影された動画なのだが、肝心の動画編集者がドイツに移住してしまったのだ。撮影機材の操作については、こちらはまったくの素人。お手上げである。いや動画はいいが、録音した音声があれば、文字起こしをして本に仕上げる事が出来ない。私は頭を抱えた。

そのとき、荷物持ちだった息子が言った。「こんなこともあろうかと音声は予備で録ってある!」。ありがたい息子である。

さて、撮影された動画だが、その後無事編集されたものの、その過激な内容に、ネット配信の踏ん切りがまだつかないでいるのだった……。

(児童文学作家)

(2014年02月21日, 「赤旗」) [\[TOP\]](#)

危うし！レイコさん／溝江玲子／2／歯に挟まり危機一髪

私は、神戸のコミュニティーラジオ局「FMわいわい」で「ももっちおばちゃんのラジオお昼便」という番組のパーソナリティーをしている。

早いもので放送回数がまもなく500回になる。毎週1回10分間、司会のKさんと二人三脚で続けてきた。

番組の中で私は「ももっち」を名乗って、街の珍しいニュースも拾い、時事ネタも取り上げてきた。

だけど、私の基本的な問題意識の中には、やっぱり、平和、民主主義の大切さを訴えたいという思いがある。

例えば、関西勤労協から中田進先生にゲストとして来てもらい4週間にわたって話して

もらったときは、お堅い話すぎるかと心配した。が、結果は大好評だった。

しかし！ その収録の裏では、私は危機一髪の事態に陥っていたのだ。

収録日当日。番組内で私の相手役をしてくれているKさんに誘われて、中田先生と3人で収録前にベトナム料理を食べたのだが、なんの拍子か、葉物野菜が歯と歯の間にはさまってしまった。

洗面所に避難して、おっちゃんみたいに爪楊枝でシーシーほじってもどうしても取れない。そのうち歯が痛くなってきた。鏡で見ると、歯と歯の間から小さなクローバーみたいなものがちょこんと生えている。

無情にも収録時間がやって来る。

日本国憲法の素晴らしさのキモを、分かりやすく、すらすらとお話していく中田先生。私も、リスナーにできるだけ面白く伝えたいと思うのだが、歯がズキズキと痛い。言葉がとぎれそうになるのを持ちこたえるのに精いっぱい。歯にはさまった葉物野菜を隠すために手で顔を隠し、脂汗を流しながらの収録になった。Kさんから「分かりやすいお話でした！」と言われてホッとする。それにしても、メディアは、歯にものが挟まったような放送はいけませんね！

(児童文学作家)

(2014年02月14日, 「赤旗」) [【TOP】](#)

危うし！レイコさん／溝江玲子／1／膝が痛くて危機一髪

去年の暮れに76歳になった。最近、足が弱ってきたなあと感じる。特に膝の裏が痛い。椅子に座っていて立とうとすると、「痛たた」と思わず声を出してしまう。

そして何かにつかまり体を引き上げる。いつまでも少女の気分で生きているけれど「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」である。さすがの私もトシなのか。

いいえ、そうではありません、ダンス教室を辞めてしまったために、運動不足になって筋力が弱っていただけ。ダンスを再開すれば、きっと元に戻れると思うの。

夫が「いいトシしてダンスなど恥ずかしい」と言い立てるので、根負けして、通っていたダンス教室を辞めてしまっていたのだ。それが、膝の痛みの遠因になったのだと思う。

とにかく。もともと出無精な上に、膝や足が痛いとなると、さらに家に閉じこもりがちになる。外に出るときもつい車。休日なら息子の運転。平日だと近所のお友だちに頼んで、送迎してもらっていた。

ところがである。夫の同僚の偲ぶ会に夫婦で出かけた時のこと。息子の車はいにく故障だと言うので「もうしゃあない、駅まで歩いて行こか」と十分余裕をもって家を出たのだ。

しかし、足が前に進まない。60代のころでは20分で歩けた駅までの道のりが、40分もかかるようになっていたことに気がつき、愕然としたのだった。

夫にせかされ叱られ、なんとか電車に飛び乗った。すると、夫はこう言ったのである。「おまえ、ダンスやめたらあかんがな。足弱ってるで」

どう思います？ 夫がダンスするな、するなって言って、それで辞めたんやがな、と言
い返したかったが電車の中で大声を出すわけにもいかない。「そうね、またダンスを始める
わ」と静かに言うと夫は珍妙な顔をして頷いたのであった。

(児童文学作家)

(2 0 1 4 年 0 2 月 0 7 日, 「赤旗」) [【TOP】](#)